



日本風土記

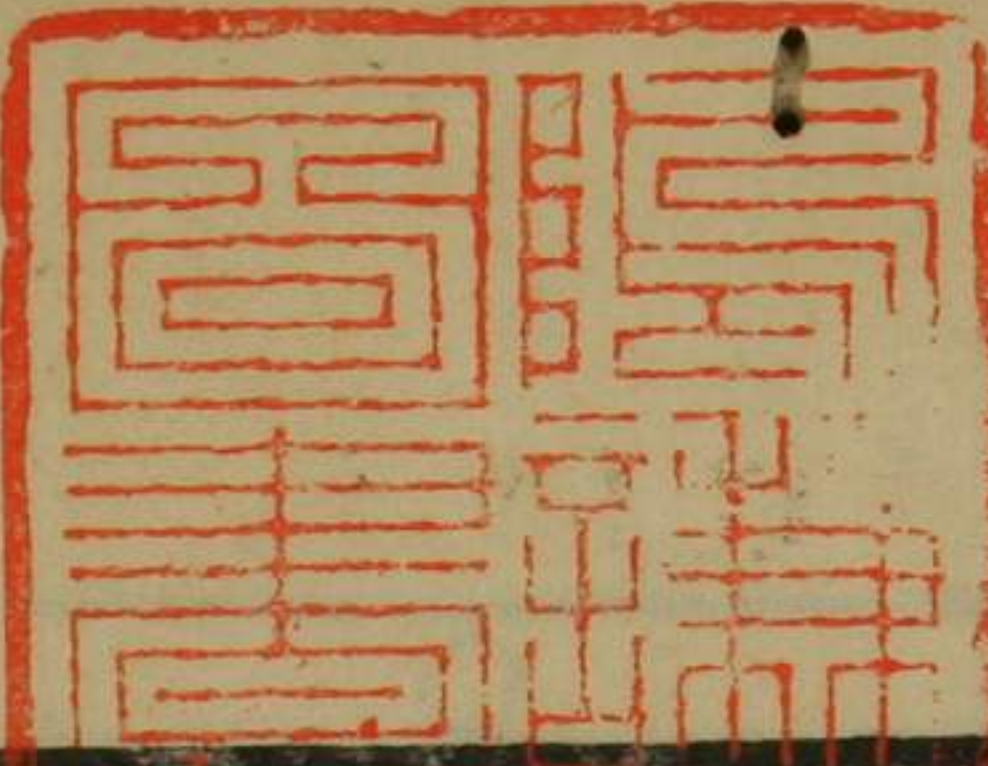
八終

ル 3
302
8 1/4

日向	筑前	西海道	肥前	備前
大隅	筑後	筑前	肥後	備中
薩摩	豊前	豊後	肥前	備後
豊岐	肥後	伊豫	土佐	安藝
野馬	肥後	長門		



三
 冊
 卷
 302
 8



日本風土記卷八

備前國十一郡 田圃一万三千二百六丁

南多海を帯くくわら山はくわらて

暖早一草木繁茂一五穀実のる事

化境工先の紐刀綿布多

小瀧和氣 繁梨 邑久 赤坂 上道

津野 小足 津高 見瀧 釜瀧

上後中上国四方三日余

知行高 二十二万七千七百五石 江戸ヨリ 百七十里余

26

城下 岡山城 新田 新田

備前 一之宮 備中 備後 吉備津明神

名産

印部焼いんべく法ほりの陶器たわらぎを修あて 墨山素麩すみやま

海月うづり 親うま 白奥あしう 川口かわぐち 纒まき

牛窓うしまど 鳥賊とりぞく

下津井しもつゐ 蛸たこ 雲浦うら 白藤しろとう

藤戸ふぐ 海苔うめずし

醬油しょうゆ

名所

唐琴泊からこと 日浦ひのうら 虫明迫門むしあらしのせと

大橋おほはし 津つ

牛窓うしまど

児嶋こじま

藤戸ふぐ 渡わた

神嶋かみじま

神村山かみむらやま

八ノ一

神社 石上 酒折

○石上社 赤坂郡岡山傍三里許有 祭神

布都御魂ふつみたま

當宮素戔あつみや 尊みこと 斬蛇きりま 之の 劍号やなぎ 韓鋤かんさび 也なり 祭まつ 以もつ 為ため

神靈神紀かみたま 所謂いわ 其素戔そのみこと 尊みこと 斬蛇きりま 之の 劍やなぎ 今いま 在あ

吉備神部きび 許もと 又また 云い 其斬蛇そのきりま 劍号やなぎ 云い 蛇へび 之の 廉正れんせい

此在石上者こゝに 是也なり 因功よ 則名すなは 廉正れんせい 形かたち 則号すなは

韓鋤かんさび 所謂いわ 異名い 同物おな 崇神たかみ 天皇てん 御宇み 奉た 送は 天あ

和国山边郡 塔

○酒折社

岡山石関 有リ

祭神一座

日本紀 日本武尊自日高見国還之西南歷常陸至甲斐国居于酒折宮時舉燭而進食是夜以秋之伺侍者云 珥比磨利菟玖波塙須擬氏異玖用加林菟流諸侍者不能荅言時有秉燭者續皇子秋之末而秋云伽餓奈陪氏用珥波虛々能用比珥波苔塙伽塙即義兼燭人之聰而敦賞

○備中國九郡 田園一万八百十三丁

利刀耘犁 耕治多一五穀 實半 運かろは 孝靈天皇第三子雅武彦命以功封于備之中列其後胤吉備大臣也

賀屋 府 小田 東西 都字 窪屋 下道 淡口

後月 結多 英賀 上下 三郎 寄修

上叡大上國四方三日半

知行高

北万七千八百九十四石

江戸ヨリ

近八百二十里 遠六百八十里

城下

足守

廣瀬

岡田

新見

松山城

備中 一之宮

吉備津明神

名産

小菊紙

漆 藤骨裏

柳骨理

鋤

楸 益山石

名所

細谷川

雄琴里神島

高倉山 黒上山

松山

吉備中山

岩根山 稲山

花見山 菱山

高槻山

高月山

心木山

松原山

白か子山

秋坂山

育本山

吉備小橋

稲井

泉井

長井

松井

二万里

豊忌里

野山里

長尾村 岩倉村

○吉備津社

賀屋郡三有リ

祭神

吉備武彦命

備前備中備後三國之二宮也 一宮記

○新名帳註

人皇第七孝靈天皇御子彦五十芥

命亦名吉備津彦命是說非也孝靈三世

皇子吉備津命也日本紀与風土記符合

景行天皇御宇彼御子吉備武彦命

吉備國如備中風土記者賀夜郡伊勢

御社東有河名宮瀬川河西者吉備建日

子命之宮造此三世王故之名宮瀬勸請

年紀未分明 按神祇正宗云 人皇卅四
代推古帝御宇元年現座

社家説云

本宮 孝靈帝 去本殿南

本殿 吉備武彦

岩山 地主神 去本殿巽七町余

内宮 孝靈帝后 曰

新宮 吉備津彦 去本殿南十町許

釜殿 去本殿西町許 傳聞若人有祈願則

來于當宮就神宜ト鳴声吉凶也仍誓神
士一々輻輳如市

仁壽二年二月備中國言備津命神列

官社同年七月奉充封北戸 文德實錄

御位 貞觀元年正月廿七日二品 神階記

○神託 天照神のより乃被ひたまはるは

百日此よりをのぐれ百度此祭文を千日此

祭文をける子世万歳を履くも天神の老く

みよはるより世生る世くみよのりて天

名産

豊表

骨柳

茂竹

編笠

靴

備後砂

田崎鯛

名所

鞆浦

室野

叫橋

此泊

當國一之宮備中吉備津明神也

神社

渡

疫隅

○渡社 沼隅郡鞆ニ有リ祭神 船玉命

猿田彦神也 卜部兼邦説

傳テ云神功皇后三韓御退治発向ノ時此浦

ハノ六

ニテ船楫ヲソロエタマヒ兵食ヲツミツナエ
タマフ渡ノ地ニシテ船ノ鞆ヲモツテ神坐
トシタマヒ舟玉神ヲ祠タマヘリ是故ニ此
ヲ鞆ト云フ ○鞆ノ浦哥ニヨメリ

新勅撰

鞆乃浦此後のむら乃本居るての運や妹をわきれんやい 大納言藤人

○疫隅社 所同上 号鞆祇園

祭神 三座山城祇園ニシ。祭六月十四日

是社傳備後風土記ニ見ユ今彼國ニ有リ疫隅

社ト云フ云々 風土記上ニ見エタリ

○安藝國 八郡 田圃 一万七千八百四丁

山深く良材多し海近く塩藻多し五穀豐饒

沼田 高田 豊田 沙田 斐茂 佐伯 安藝

高宮 嚴嶋 那外多し 上爰大下國南水三月半

知行高 九万九千三百八十四石 江戸より二百三十里

城下 廣嶋城 新田

名産 紙袍（紙のうす） 法口紙（のちのうす） 葛籠（のちのうす） 水晶（のちのうす） 燗酒（のちのうす）

聖徳宗 期雷（のちのうす） 浦所（のちのうす） 庚徳（のちのうす） 花西（のちのうす） 栗材（のちのうす） 新田（のちのうす） 佐伯（のちのうす） 小方里（のちのうす）

名所 嚴嶋 新田池 佐伯 小方里

安藝 一之宮 伊都貝嶋神社

○嚴嶋社 佐伯郡ニ有リ 祭神 市村嶋姫（イナキシメノヒメ）

○天照大神（アマテラス） 与素戔（スサノヲ） 烏（カラス） 誓生（チカエ） 三女（ミメノコ） 内市村嶋（ウチノイナキシメノヒメ）

唯也 一宮記 系因傳上ニ見

天照大神以素戔（アマテラスノカミ） 烏（カラス） 爲（ナリ） 八坂（ヤチノサカ） 壇（イハ） 之曲（ノマカド） 至（ニ） 化生（カミナリ）

神号（カミナリ） 市村嶋姫（イナキシメノヒメ） 命（ノミコト） 是（コト） 若（ニ） 子（ノ） 遠瀛（トホノミヤ） 者也（ナリ） 日本紀

傳系上ニ見

推古天皇五年十一月十二日（スエホノミカドノイニシチノヒナニニ） 内舍人（ウチノイナキ） 佐伯（サカイ）

鞍職（クサシロ） 卜（ウラナヒ） 云（イフ） 者（モノ） 綱釣（ツナヅク） 因（ヨリ） 賀（ガ） 人（ヒト） 爲（ナリ） 嶋（シマ） 邊（ノヘ） 二（ニ） 經（ツ） 回（ル）

シケルニ西方ヨリ紅ノ帆アゲタル船見
工來ル船中ニ籠アリ籠ノ内ニ鏢ヲ立テ
赤幣ヲ付タリ籠ノ内ニ三人ノ貴女アリ
其形端嚴ニメ人類ニ同シカラス詭宣メ
云吾百王守護ノ為ニ本所ヲハナレテ王
城ニ迫ツク宝殿并廻廊百八十間造立ノ
吾ヲ嚴嶋大明神ト崇ベシトノ玉ハ鞍職
云何ナルレルシ有リテカ官奏ヲ経ベキ
ト申ス明神云ク王城ノ民ノ天ニ客星異

光有リテ出現セン公家殊ニオドロヒテ
怪ヲ成ベシ時ニ鳥鳥多ク集テ共神ノ枝
ヲ食エント宣ヒケリ即津国難波ノ王城
ニ俄ニ千鳥神ノ枝ヲ食エテ禁裏ニ鳴集
鞍職奏メ申是ハ大明神ノ現瑞也ト天皇
殺信アリテ御俸田町脚修理杣山八千町
脚寄進ノ宣旨ヲ下サルノ上同年十二月
廿八日重テ宣下セラレテ云自今以後拜
任當国之吏每任可捧上分田不可輕神威

及未代社頭破壞顛到之時ハ當任ノ国司
經官奏國中ノ朽ヲ點ノ修理スヘシ其間
サイモク 杖木檜皮等不可運上京都云 盛長記

○弘法大師詣嚴嶋供法味神現云所祈何事
答云末世析菩提者願神賜道心餘何望哉
神誘而隱或時一僧來詣見其祭供海中辟
鱗不知其數心謂和光本地佛亦也專慈悲
戒殺生而今此供物亦可以疑因心析之神
託云世之不知因果恣殺屠而有罪者欲供

於我故讓罪于我其罪推於其生類報余盡
而為祭供以此因緣為佛道方便是以令取
其報命已盡之鱗類以祭我矣於是僧解其
疑 神社考 沙石集

○神託 吾國以人吾名と云うと云ふり
ありしに此世もこれと云ふるも有り吾
上ありては日乃神也中央也人と云ふは
土地の内ありては人なりと云ふは海中
ありては海なりと云ふは海なりと云ふは

らすくは酒田林と女佐林とてはるく酒を
 めきぶうくはあゝせうやんたうくは酒田
 山上世のり廻廊と平地ありて酒田の
 三方よりわたりてしりあをさるるあり
 慶とゆふたはゆふたの男慶のたきあり
 けらねはなまらぬじりけりさるるあり
 何んあゝ今も酒田はあゝんはあゝん
 ぞりけりあり 榎集抄

○周防國 六郡 田圃七千六百七十七丁
 佐波 熊手 又毛 大瀧 玖賀 都濃 若波
 上後中上國東西三日

周防	知行高	十六万四千四百二十石	江戸より二百五十里
	城下	徳山	
一之宮		玉祖神社 <small>たまおやの</small>	

名産

岩園半紙

摺原

烏子紙

漆

名所

岩園山

錦川

錦帯橋

祝酒

竹島

大島鳴門

宝積

水室池

竈戸

上の園と云

神社

玉祖

高峯

山口

朝倉

○玉祖社

佐波郡ニ有リ

祭神

玉屋命

伊婁諸尊男

一宮記

○高峯宮

吉敷郡山口ニ有リ

祭神

伊勢兩

宮ニ月シ

○社家註進云當所内外一宮

永正十七年十一月上旬大内多々良朝臣
從三位左京大夫義興依夢覺而從伊勢方
度遇郡奉遷當國高峯也祭祀永社等准兩
太神宮一啓

○山口社

川邸ニ有リ

祭神 山別祇園ニ月シ

山口祇園ト云々 ○社家註進云永正
年中疫疾盛行国民斃死者甚多其仍大内
義貞祠之迁官ト詔兼右被勤焉

○朝倉宮 朝倉ニ有リ 祭神 八幡 宇佐ニ月
人皇五十六代清和天皇貞観元年互行宮
勸請之ヲ 二十二社註式

○長門國 六郡 田園 四千七百六十四丁

南と海小ハ山連る魚鱗 五穀多ク

元ノ名穴門ト云フ日本紀ニ見エ仲哀天皇

都ニ玉ヘリ穴門豊浦宮トハ是也 猶日本紀ニ委

豊浦 厚狭 英根 大津 阿武

鬼瀧

中後中之國東西二日半

知行高 十三万四千五十九石 江戸ヨリ海陸二百八十里

城下 萩 城 府 中 清 末

長門 一之宮 住吉神社

名産

印籠 紫硯 赤回園 萩焼 陶器 緑青
 素話 長府 碁石 櫛 石炭 舟本 舟所の云中より
 下関 鮪 垣生 馬絨 三島大蛤 右見
 川 捜 鮪

名所

豊浦 赤間関 安武松原 面影山 鞠の忌
 時の浦 門司関 あすの浦 安古海

神社

住吉 和布 龜山

○住吉社 豊浦郡ニ有リ 祭神 底筒男

中筒男 表々々々 一宮記

神功皇后十一年垂跡于長門国豊浦云々

又云住吉大神其荒兔在筑紫之小戸和兔

神功皇后征三韓時顯座撰列而託云真住

吉真々々之因也因鎮座地名云住吉豊浦

那珂之住吉由撰及地名而通称之 神名帳註

○即位 貞観十七年十二月五日從四位

上 国史

○神託 吾國の人々吾神乃るの是親の故に
くくわんくわんあふあふのやふふくわんくわん
わんくわんくわんあふあふくわんくわん
くわんくわんくわんあふあふくわんくわん
くわんくわんくわんあふあふくわんくわん

○和布荊社 下関赤目ニ有リ 當社ヲ和布荊
社ト云事ハ毎年ノ除夜々半ニハ必此海ノ
汝ヒル也神人炬火ヲ燈シテ海底ニ至ヌ
レバ和布生出テ有リ是ヲ荊トリテ帰ル
也誠不思議神變也 明且元朝ニ神前ニ

備ユル也是ヲ和布荊ノ神更ト云也

祭神 彦火々出見尊 神社考

傳系上ニ見當社鎮座記未考

○龜山社 龜山ニ有リ 祭神 八幡三座

應神帝 中殿 神功皇后 仲哀帝 右

○人皇五十六代清和天皇貞觀元年奉遷男
山時行教和尚造行宮勸請之 二十二社註式

○南海道六箇國

○紀伊國七郡 田圃七千百十九丁

南方養海（養海）にして小方を裁（裁）るるふなり
魚多及人の薪は未多なり

紀ト讀也故實也或云昔秦ノ徐福ト云者

不死ノ藥ヲモトメニ出テ此國ニ來ル里人

奇異也哉ト云シヨリ紀異國ト云フト云々

倭都 那賀 名草 海邊 有田 日高

牟婁 上爰小ト國東西二日

知行高九万五千一 阜七石 江戸ヨリ 遠六百里三十里

城下 和歌山城

伊紀 一之宮 日前神社

名産 鴻本綿 本綿總 紋羽足袋 加田和布

青皮 蜜柑 若山忍冬酒 藤代馬刀 紀川

鯉 根来椀 粉門鞆 若浦海雲 熊登密

鯨 緑油 熊登世本 泥川鵜 玉津島蛤

五重槍杖 松笠 那智若石 大湯庭石

名所 妹脊山 岩代 磐田川 妹知彦 磯向浦

夏公門 千尋溪 千里溪 若野川 緒拾

山 和歌浦 若松原 神島 神菰山 形

見浦 玉川 玉津島 高野 田中舟戸

名草 那智 牟婁那 熊野 吹上

有馬 林津堂 佐野長 紀海 由良門

三穗窟 塩屋王子

神社 五十 玉津 丹生 四所 紀伊 日前 熊野 粟嶋 七社

○日前社 伊弉諾宮 伊弉諾宮 名草郡二有リ

祭神 石凝姥神 天兒屋祢命孫

一宮記

○太神入天石窟而閉磐戸天下恆闇時思
兼神思而白云宜圖造彼神象而奉招擣
即以石凝姥為冶工採天香山之金以作
日矛又全剥真名鹿之皮以作天羽輪用
此奉造之神是即紀伊國所坐日前神也
日本紀

神託 益人公を虚れし其の身之地乃
て其口風のぞく其思ひて地小を
すれを神の其身を社とて日月光を
友とて其思ひ洗と矢つてるべうとぞよ
和漢語

未社

五十猛神社 ○素戔嗚尊師其子五十猛
神降到於新羅國初五十猛神天降之時
多將樹種而下然不殖韓地盡以持歸遂

始自筑紫凡大洲國之內莫不播殖而成青山焉所以稱五十猛命為有功之神即紀伊國所坐大神是也 日本紀

○大屋津姫社

○抓津姫社

○素戔嗚尊之子号云五十猛命妹大屋津姫命次抓津姫命凡三神亦能分布水種即奉渡於紀伊國也 日本紀

○熊野社

牟婁郡三有リ 祭神三座

伊奘並尊

伊奘兩尊生火神時被灼而神退矣故葬於紀伊國熊野之有馬村焉土俗祭此神之魂者花時亦以花祭又用鼓吹幡旗歌舞而祭焉

日本紀

事解男神 速玉男神

伊奘諾尊追至伊奘並尊所在處便語之云悲汝故來答云取也勿看吾矣伊奘諾尊不

從猶看之故伊止八並尊耻恨之云汝已見吾
情我復見汝情時伊契諾尊亦慙焉因將出
返于時不直默故而盟之云族離又云不負
於族乃所離之神号曰速玉之男次掃之神
号泉津事解之男凡二神矣 月上
崇神天皇十六年始建熊野本宮 景行天
皇五十八年建同新宮 神名帳註

○脚位 延喜七年十月二日丙午熊野坐

神正二位 天慶三年二月一日丁酉速玉
神正二位 国史

○古事紀旧事紀等謂伊契册尊神去葬出
雲国与伯耆国之界比婆山不与此山后社
家者說熊野推現者自天竺毛來之神也今
見此神書為伊契並尊者决矣故諸道博士
勘之多引此書為据 神代集祭疏

按神代旧事紀等一說以葬於紀伊国熊野
之記文為伊契並尊者也若據長寬勘文則

為熊野權印申之明矣蓋伊婁並傳其子
出雲國比波山之故也又今紀伊國熊野
鄉有馬村魚神則彼神紀之一說非無疑
乎 啓

○熊野權現證誠殿本地阿弥陀 本宮

兩所權現者藥師觀音 新宮

○若一王子施魚畏大士 号云日本第一

大靈驗三處權現

○毛瀧權現 千手觀音 已上習合ノ説

花山法皇入那智山不出三年其精修勤苦
苦行之者皆取法一日神龍降献如意珠一
顆水精念珠一串海貝一牧帝置宝珠於岩
屋念珠於千手院以為地鎮苦行上首傳持
秘授至如今其海貝九穴沉瀧下俗云食力
穴貝者長年不老蓋帝令飲瀧水者得延齡
也兼保帝面見事召弄潮者入瀧底搜看潮
人出波奏云貝猶在徑三尺許自帝修練此
地苦行者六十人至今不絶 叔書百十七

已上之野ニ有リ 假名書ニ分ニ有リ

○伊曾太社 名州郡ニ有リ 祭神三座

五十猛命 大屋津姫命 批津姫命

傳上ニ見 ○大室二年二月己未分遷伊

都太社大屋都姫都麻都比賣三神社後日本紀

御位 貞觀元年正月廿七日伊曾太社大

屋都姫神批津姫神並從四位下 神階記

○至津島社 弱浦ニ有リ 祭神

衣通姫靈也 人皇二十代允恭天皇皇后也

○至津嶋神者衣通姫也案日本紀允恭天

皇之后忍坂大中姫之妹容姿絕妙無比其

艷色徹衣而鬼之是以時人号云衣通即姫

天皇喚郎姫郎姫畏白皇后而不參天皇強而

七喚以來之因皇后之嫉別構殿屋於藤原

而居八年春二月辛子藤原密察衣通姫之

消息是以衣通郎姫戀天皇而独居其不知

天皇之臨而秋云和餓勢故餓勺倍根豫臂

奈利佐瑳餓泥能區茂能於虛奈比虛豫比

辞流辞毛天皇^{キミノミコ}聆^{キコ}是^{コト}教^ヲ則^ハ有^リ感^シ情^ヲ即^チ姬^ノ奏^シ言^フ
 妾^{メカ}常^ニ近^キ王^ノ官^ニ而^シ晝^ニ夜^ニ相^シ續^ラ欲^ス視^ル陛^下之^ノ威^儀後^ヲ
 然^レ皇^后則^チ妾^ノ之^ノ姊^也也^ハ恒^ニ恨^ム陛^下亦^チ為^ル妾^ノ若^シ是^レ
 以^テ異^ク離^テ王^ノ居^ニ而^シ欲^ス遠^ク居^ラ天^皇更^ニ与^テ造^テ官^室於^テ
 河^内茅^渟而^シ令^レ居^ラ日^下畧^ノ神^社考^ス

○天^ノ聖^武帝^也抑^テ用^テ豐^饗櫻^彦天^皇神^龜元^年十^月
 幸^ニ紀^伊國^詔云^ク登^リ山^望海^州間^最好^シ不^レ勞^遠
 行^ヲ足^レ以^テ遊^覧故^ニ改^メ弱^濱名^ヲ為^ス明^光浦^宜置^テ戶^守
 守^勿令^レ荒^穢春^秋二^時差^遣官^人奠^祭玉^津

島之神明光浦之靈 續日本記

和哥 浦 海士 田 靄 神 玉津島

古今 和^ガ方^ノ浦^ノ水^ノ清^クら^シく^シて^シ波^ノ若^クき^ハて^シ田^ノ踏^ハ唱^ハ渡^ル赤^人
後古今 日 今^ノ斗^ノ口^ノは^シ風^ノ乃^チく^シて^シま^まく^シて^シ玉^津島^ニ見^ル
古今 兼^テく^シて^シ和^ガ方^ノ浦^ノ地^ノ子^ノ孫^ノは^シて^シ若^クき^ハ神^ノ玉^津島^ノ也^ハ
古今 和^ガ方^ノの^ノ系^ノを^シて^シ流^ノの^ノを^シて^シみ^まく^シて^シ玉^津島^ノ也^ハ

○淡路國 四郡 田圃 二千八百七十丁

伊弉諾伊弉册二神産玉ノ洲也 日本紀ニアリ

津名 三原 六島 繪濱 上原上園四方一日

知行高 六万三千六百二十一石 江戸ヨリ百四十里余

淡路 一之宮 伊弉諾神社

名産 苦竹 前大餅飴 武島女郎鰯の 辛螺

名所

大和島 野島 松帆浦 淡路深 浅盤

橋島 山石屋

神社 伊弉

○伊弉諾社 津名郡ニ有リ

履中帝五年秋九月十八日天皇狩于淡路嶋是日河内飼部從駕執轡先是飼部之黥皆未差時居島伊弉諾神託祝云不堪血臭矣因以卜之兆云惡飼部等黥之氣故自是後頓絶以不黥飼部而止之 日本紀

伊弉諾尊神功既畢靈運當遷是以構幽宮於淡路洲寂然長隱者矣 日本紀

○御位 貞觀元年正月廿七日一品 神階記

○阿波國 九郡 田園 五千二百四十五丁

三好 麻植 名東 名西 勝浦 郡賀

板野 阿波 受馬

上後中上國 四方二月

知行高 十八万六千七百五十三石 江戸ヨリ百六十里余

城下 德島城

名産 材木 鳴門和布 麻尾藻 燧燭石

撫養 蚶貝 葛石

名所 鳴門 阿波橋 里番

八ノ二十九

阿波 一之宮 大麻彦神社

○大麻彦社 板野郡ニ有リ 祭神

猿田彦命 一宮記

○御位 貞觀九年四月廿三日正五位上 国史

○讚岐國 十一郡 田園 七千九百四十二丁

北方海をめぐりて両方ふまりの雲陽邊

大内 寒川 二本 三壺 山田 神田

阿聖 務足 多度 那賀 香河

上後大中國東海三日

知行高 十七万千八百十石 江戸ヨリ 海陸百七十里 遠ハ百八十里余

城下 高松城 丸亀城 多度津

讚岐 一之宮 田村社

名産 石蛤 石蛤 侯君あり弘法大師討つた石(石不) 志貝 志貝 蛤ふれく

真鴨鱈 小豆島 茨海茸 平家蟹 平家蟹 へいけがふ

引田海茸 志渡浦 淡松 料理ふりち也 志渡浦 淡松 料理ふりち也

八ノ三十

名所 泊碛 松賀浦 松山 白家 徳浦

屏風浦

神社 田村 崇徳 白鳥

田村社 香川郡ニ有リ 祭神

猿田彦命 一宮記 御位

貞觀九年十月五日從四位下 国史

崇徳社 松山ニ有リ 祭處

宗徳院御靈

人皇七十五代ノ天子ナリ

鳥羽院第一御子也諱ハ頭仁母ハ中宮藤原

璋子待賢門院ト号ス大納言公實ノ娘元

永二年五月天皇誕生保安四年正月二

讓ヲ受二月即位時ニ五歲治世十八年

永治元年三月上皇鳥羽殿ニテ落飾鳥羽

法皇ト号ス歲卅九 十二月法皇ノハカライニ

テ宗徳帝何ノ故モ無ク位ヲ御弟ノ体

仁ニ讓ル後十六年有テ後白川院保元元

八ノ三十一

年七月二日鳥羽院崩ズ歲五十四天皇即

位ノ初ヨリ忠通ハ替ス関白タリ頼長ハ

氏長者元ノ如シトイヘトモ内覧ヲマメス

是ニヨリテ當今工恨有ケルニマヨリノ

崇徳新院ヲス、メ申サル、コト有リ新院

元ヨリ世ヲ取返サントノ志アリケレバ

悦玉ヒテ頼長ト密謀アリ法皇ノ山崩御ニ

折ヲエテ近国ノ兵ヲ呼アワム故ニ崩御

一七日モ過ガルニ京洛外騒動ス新院ハ

鳥羽ヨリ白川ノ脚取工脚車也頼長モ月
 少参向内裏エハ関白忠通以下参向ス武
 士ニ六下野守源義朝安藝守平清盛等内裏
 ヲ守護ス義朝ガ父為義ト清盛ガ叔父平
 右馬助忠正等ハ新院ノ召ニヨリテ白川殿
 ニ参ル為義ガ子共義朝ガ外ハ皆新院ノ
 旗方ニアリ月キ十一日ノ夜少綱言入道
 信西勅ヲ奉テ義朝清盛等ヲレテ新院ノ
 脚取ヲ攻シム為朝フセギ戦フニ依テ宮

軍多ク討ル義朝火ヲ放テ白川殿ヲ焼ハ
 ラフ新院ノ軍敗テ散ズ頼長ハ流矢ニア
 タリテ死ス歳三十六新院ハ出家シ至ヒ
 レシ讃岐國エ流シ奉ル時歳三十八此合
 戦君臣上下共ニ親類骨肉ノ争前代未聞
 也新院ハ二條院長寛二年八月讃列ニテ
 崩ス歳四十六白峯ニ葬シ 壬代一覽
 ○白鳥社 讃列有 祭神一座 日本武尊
 日本武尊後伊勢而崩于能褒野時年二十

仍葬於能褒野陵時日本武尊化白鳥返後
 出之指倭國而毛之群臣等因以崩其棺觀
 而視之明衣空留而屍骨無之於无遣使者
 追尋自鳥則停於倭琴原仍於其地作陵
 焉自鳥更毛至河内泊旧市邑亦其地造陵
 故時人号是三陵云白鳥陵然遂高翔上天
 徒葬衣冠日本純
 一説云讚岐國有白鳥明神是倭武尊也自
 伊勢國差西毛去止于此國云 又云日本

武尊之靈化為白鶴西飛止讚州 神社考

○伊豫國 十四郡 田園 一万四千八百九十五丁

北方海を抱き南方山を脊より五穀熟して
 繁茂せり

宇和	宇摩	新居	周敷	東村
越智	野間	風早	和氣	温泉
久米	淳元	伊豫	喜多	

上叡大中國に方二日

知行高卅八万千六百四十五石 江戸ヨリ 海陸 二百里
 遠ハ 二百七十里

城下 松山城 新田 小松 西条城

今治城 宇和嶋城 大洲城 吉田城 新谷

伊 豫 一之宮 大山祇神社

名産 半夏 桐麻 豆腐菽 松山味噌

日素麩 大津紫根 宇和嶋絹 綾布盆山石

日袋石 奉書紙 摺原紙 鴻曲鮑

来鴻白藤 白峯鶴

名所 三浦

神社 大山 湯宮 新田

○伊与

○大山祇社 越智郡ニ有リ 祭神一座

大山祇神 傳系上ニ有リ

俗稱ニ嶋大明神伊与風土記云宇和嶋郡

座神脚名大山積神一名和多志大神也此

神者難波高津宮御宇渡座云々 神名帳註

○御佐 貞規十七年三月廿九日正二位

○神託 吾神めは湯の中にも見えたり
大目通眼の影は海の水にみえたり
して三累乃ちその影にみえたり
とわろふふもみえたり
神め如きとみえたり

○湯宮 温泉郡道後ニ有リ 祭神二座

大己貴命 少彦名命 傳系上三日見

○伊与凡土記云湯郡大穴持命見板耻宿
奈比古那命欲活而大穴速見湯自下桶持

來以宿奈比古奈命令浴漬者暫間有治起
居然詠云直暫寢哉踐健地今在湯中石
上也凡湯之貴音不神世時身於今世漆瘡
病万生為除病存身要藥也 歌日本紀

○新田社 同国在所未考 新田義宗義治

之靈也 新田明神ト申ハ去ル應永年中
新田或藏少將義宗殿屋右衛門佐義治出
羽田ヨリ密ニ當国ニ抜浴シ申坐シ又河
野一族土居得能ヲ頼王テ深隠坐シケ分

時至ラズレテ素懐ニモ達シ玉ハズ彼国
ニテ空ク成玉ヒレヲ神一祭テ新田明神
ト号奉ル也 後太平記。因云武藏国矢口
渡ニモ新田明神ト号ノ社有リ此所ハ
新田義貞ノ灵ヲ祠也 義貞ハ義貞ノ次
男也小名ヲ徳壽丸ト号ス其母賤ニ因テ
義貞コレヲ愛セズ嫡子義興越前ノ金崎
ニテ討レシ後義貞ノ弟義宗ヲ家督トス
延元々年八月貞列ノ国司源家鎌倉ヲ攻

ル時徳壽丸上野ヨリ起リ二万騎ヲ率
頭家ニ与カメ鎌倉ヲ攻破ル其後吉野工
參ル後醍醐天皇ノ御前ニテ勅命ヲエテ
元服シテ左兵衛佐義貞ト号ス其後親應
二年ノ春尊氏鎌倉ニアリシ時義宗義貞
并ニ脇屋義治上野國ニテ義兵ヲ起シケ
レバ東國ノ兵附従フ者数万也武藏野工
出張ノ尊氏ト合戦ス尊氏打負テ已ニ危
カリシガ幸ニ免タシ愛ニ尊氏ノ一族仁

木頼章同義長遊軍ニテ戦ノ勝負ヲ窺ヒ
ケルガ義貞義治力戦疲テ居ル所工夜討
シケレバ義貞義治自ラ戦ヒ拒武勇ヲハ
ゲニストイヘドモ力盡テ退ク義宗ハ義
貞義治ノ尋カ子テ上野工赴ク其比鎌倉
ノ留守ニ尊氏ノ次男基氏在ケレバ義貞
義治鎌倉工攻入ル基氏ノ守南遠江守拒
ギ戦トイヘドモ義貞義治武勇ヲ勵シ攻
ケレバ遠江守折負テ基氏諸共ニ落行ケ

シバ義貞義治鎌倉工入テ暫東ハ歸國ノ
大將ト称ス其後尊氏鎌倉工向レケレバ
義治義貞退テ相模ノ河村ノ城ニ籠リテ
尊氏ト合戦日久シ翌年ノ春河村ノ城ヲ
退テ越後工赴尊氏逝去ノ後義貞武藏工
赴キ其ヲ起サントス義貞ノ旧好アル者
附従者多シ此時鎌倉ノ管領基氏ノ執事
畠山道誓是ヲ聞テ義貞ガ在所ヲ尋聞テ
屢討手ヲ遣義貞大カナレバ討レズ道誓

如何スベキト晝夜^{チカ} 茶^チ居^イタリケルガ^カ成^ル
夜^{チカ}潜^カニ竹^{タケ}沢^ノ右^ミ京^{キョウ}亮^{リョウ}ヲ^シ近^{チカ}付^ツテ^テ御^ミ邊^ノハ^ハ先^マ年^ニ
武^ム藏^{ゾウ}野^ノノ^ノ合^カ戦^{セン}ノ^ノ時^{トキ}被^カ美^ミ貞^{チン}ノ^ノ手^テニ^ニ屬^リメ^ル忠^{チウ}
有^アレ^ルカ^ババ^バ定^マテ^テ其^ノヨ^リニ^ニハ^ハ忘^ワジ^トゾ^ゾ思^ヒハ^ル
ラ^ン此^ノ人^ヲヲ^イ偽^イ討^ツン^事ハ^ハ御^ミ邊^ニニ^ニ適^スジ^テ謀^マヲ^ヲ
運^カノ^ノ討^ツテ^テ左^サ馬^バ殿^ノノ^ノ見^ミ奉^{ホウ}ニ^ニ入^イ玉^ツへ^へ恩^{オン}賞^{シヤウ}ハ^ハ
請^{コト}ニ^ニ依^ヨル^レト^ト語^{カタ}ル^ル竹^{タケ}沢^ノ元^ノ來^キ欲^{ヨク}心^{シン}深^シ者^{モノ}ニ^ニテ
曾^カテ^テ一^{ヒト}美^ミヲ^ヲモ^モ申^マサ^スサ^サ候^ハハ^ハ其^ノ御^ミ制^{セイ}法^{ホウ}ヲ^ヲ
北^{キタ}月^{ツキ}テ^テ御^ミ勤^{キン}氣^キヲ^ヲ蒙^カリ^リ御^ミ内^{ノウ}ヲ^ヲ罷^カ出^デス^ル体^{テイ}ニ^ニテ

本^ホ国^{クニ}工^ク下^カテ^テ後^ノ此^ノ人^ヲニ^ニ取^ク寄^ヨ候^ベシ^ト謀^マテ^テサ
一^{ヒト}ノ^ノ事^ヲヲ^ヲナ^シテ^テ態^{タイ}追^{ツイ}出^デサ^レ己^ノガ^ノ所^ノ領^{リョウ}
工^ク取^クテ^テ後^ノ潜^カニ^ニ通^ツゾ^ゾサ^スニ^ニ謀^マケ^レバ^バ美^ミ貞^{チン}果^カ
ノ^ノ竹^{タケ}沢^ノニ^ニ欺^カレ^レテ^テ武^ム藏^{ゾウ}ヨ^リ恐^{コソ}テ^テ鎌^カ倉^{クラ}工^ク赴^ツ
ト^トテ^テ竹^{タケ}沢^ノト^ト江^カ戸^コ遠^{トウ}江^カ守^シト^ト謀^マテ^テ矢^ヤ口^コ渡^ワノ
船^{フネ}ノ^ノ底^{ソコ}ヲ^ヲニ^ニ所^ノ工^クリ^リ抜^キノ^ノミ^ミヲ^ヲ差^サシ^シ水^{スイ}主^{シュ}ニ^ニ人^ト
沖^{オキ}ニ^ニ出^デテ^テノ^ノミ^ミヲ^ヲ抜^キケ^レバ^バ水^{スイ}船^{セン}中^{チュウ}ニ^ニ溺^ニ入^リヌ^ル竹^{タケ}
沢^ノ等^{トウ}同^{ドウ}意^イノ^ノ者^{モノ}共^ニ河^カ岸^{ガン}ヨ^リ矢^ヤヲ^ヲ放^ナケ^レバ^バ
美^ミ貞^{チン}自^ジ害^{ガイ}シ^シテ^テ失^シヌ^ル所^ノ矢^ヤ三^{サン}人^ニモ^モ失^シ腹^{ハラ}ヲ^ヲ

切テ没セリカクアレヒ竹沢江戸ガ忠功拔群
也トテ則教筒所ノ恩賞ヲズ被行ケルアハ
レ弓矢ノ面目哉ト羨人モ有リ又丸彈ヲ
スル人モアリ竹沢ヲ六猶モ謀及与力ノ者
共ヲ尋ベシトテ脚陳ニ留ヲカル江戸ニハ暇
至テ恩賞ノ地工下サル江戸遠江守則拜領
ノ地工下向シケル十月廿三日ノ暮程ニ夫
口ノ渡ニ下居テ渡ノ舟ヲ待居タルニ兵
衛佐殿ヲ渡シ奉シ時江戸ガ語ヒテ得テ

ノミヲ拔テ舟沈タリシ渡守共江戸ガ恩賞
玉テ下ルト厨テ種々ノ酒肴ヲ用意ノ迎舟
ヲ漕出ケルニ此舟已ニ河中ヲ過ケル時俄
ニ天曇雷鳴水漲テ逆表浪舟ヲ返ケレ水
手一人モ不殘皆水底ニ沈ケル天人急直事ニ
非是ハ幾魚ノ怨冥也ト遠江守恐テ河端ヨ
リ引返余所ヲ渡メテ汝余下アル上ノ瀬工馬
ヲ早メテ打ケルニ電行前ニ閃テ只今雷神ニ蹴
殺サレヌト思ケレハ助切候ハ兵衛佐ト手ヲ合

虚空ヲ拜ス^{コウクウ} 遊^{ユウ} 瓦^カ 山^{ヤマ} 越^ユ 子^コ 過^カ 堂^{ドウ} 方^{ホウ} ケ^ケ ア^ア シ^シ
 テ^テ 上^ウ 馬^{ウマ} 早^{ハヤ} メ^メ ケ^ケ ル^ル ニ^ニ 黒^ク 雲^{クモ} 一^{ヒト} 村^{ムラ} 江^エ 分^ワ 頭^{カビ} ノ^ノ 上^ウ 落^オ 下^カ
 ガ^ガ リ^リ 雷^{ライ} 電^{デン} 鳴^ネ 川^{カハ} ケ^ケ ル^ル 後^{ノチ} 顧^カ 望^{バシ} ヲ^ヲ 見^ミ 奥^{ウチ} 大^{オホ} 威^イ ノ^ノ 鐵^{テツ}
 ニ^ニ 龍^{リウ} 頭^{トウ} 五^イ 枚^マ 甲^{カウ} フ^フ 吾^ガ 自^ミ 栗^リ 毛^モ 馬^{ウマ} ノ^ノ 角^{ツノ} 生^ナ タ^タ ル^ル ニ^ニ
 乘^ノ テ^テ 江^エ 戸^コ フ^フ ラ^ラ 手^テ ノ^ノ 物^{モノ} ニ^ニ テ^テ レ^レ ワ^ワ タ^タ リ^リ 七^シ 寸^{スン} 討^{ウチ} テ^テ 止^ト ヲ^ヲ 保^ホ
 フ^フ 以^ヨ テ^テ カ^カ ヒ^ヒ カ^カ 子^コ ヲ^ヲ ヲ^ヲ 乳^チ ノ^ノ 下^カ エ^エ 射^イ 通^{トウ} ガ^ガ ル^ル ト^ト 思^{オモ} テ^テ 江^エ 大^{オホ}
 馬^{ウマ} ヲ^ヲ 倒^タ シ^シ 落^オ 血^{ケツ} ヲ^ヲ 吐^ハ ケ^ケ ル^ル 與^ヨ 三^{サン} 乘^セ テ^テ 江^エ カ^カ ガ^ガ 門^{カド} 上^ウ 昇^{ノボ}
 著^チ タ^タ ル^ル ニ^ニ 七^シ 日^{ニチ} ガ^ガ 間^マ ニ^ニ 足^{タラシ} 手^テ フ^フ ア^ア ガ^ガ キ^キ 水^{ミヅ} ニ^ニ 溺^{ノボ} タ^タ ル^ル 真^{マコト} 似^ニ
 之^{コト} レ^レ テ^テ 死^シ ケ^ケ リ^リ 又^{マタ} 雷^{ライ} 火^カ 落^オ テ^テ 入^イ 河^カ ノ^ノ 在^ア 家^カ 三^{サン} 百^{ヒャク} 余^ヨ
 八^{ハチ} 四^シ 十^{ジュウ}

堂^{ドウ} 舍^{シャ} 佛^{ブツ} 闍^{ガク} 數^{スウ} 十^{ジュウ} 箇^カ 所^{ショ} ヤ^ヤ ケ^ケ リ^リ 又^{マタ} 矢^ヤ 口^コ ノ^ノ 渡^{ワタ} ニ^ニ 夜^ヨ々^々
 光^{クワ} 物^{モノ} 出^デ テ^テ 往^{ユキ} 來^キ ノ^ノ 人^{ヒト} ナ^ナ 悩^ナ ヲ^ヲ シ^シ ケ^ケ レ^レ ハ^ハ 近^{キン} 隣^{リン} ヲ^ヲ リ^リ
 集^{ツク} テ^テ 美^ミ 奥^{オキ} ノ^ノ 亡^{バウ} 靈^{レイ} ヲ^ヲ 一^{ヒト} 社^{シャ} ノ^ノ 神^{カミ} ニ^ニ 祠^{イヘ} テ^テ 新^{ニホ} 田^タ
 大^{オホ} 明^{メイ} 神^{カミ} ト^ト 号^{ナヅケ} シ^シ 常^{トキ} 盤^{ハカ} 堅^{カキ} 盤^{ハカ} ノ^ノ 祭^{マツル} 礼^レ 今^{イマ} ニ^ニ 不^ズ
 絶^{タズ} 猶^{ナホ} 委^カ 六^{ロク} 太^{タイ} 平^{ヘイ} 記^キ ニ^ニ 見^ミ 多^タ

土^{ツチ} 佐^サ 國^{クニ} 七^シ 郡^{クニ} 田^タ 圃^ポ 六^{ロク} 千^{セン} 百^{ヒャク} 七^シ 十^{ジュウ} 三^{サン} 丁^{テイ}
 南^{ミナミ} 方^{カタ} 大^{オホ} 洋^{ヨウ} 中^{チュウ} 山^{ヤマ} 岳^{ガク} 多^タ 一^{ヒト} 故^{コト} 子^コ
 良^{リョウ} 材^{サイ} 多^タ く^ク 貢^{コウ} 一^{ヒト} 人^{ヒト}
 去^キ 佐^サ 吾^ガ 門^{カド} 吾^ガ 國^{クニ} 藩^{ハン} 多^タ 烟^{エン} 俗^{ソク} 膏^{コウ} 矣^イ

長志

中及中上國東西二日

知行高 北方二千六百二十石

江戸ヨリ 二百十里 又二百三十里

城下 高知城

名産

鯉節

硯石

三月三日沼干小海産魚

備後 志良賀山檜

備材木

國中のふりま物

志良賀山檜

檜皮

帆柱

スダリ

船の楫小舟

海羅

藤葛

名所

室戸

土佐 一之宮 都佐神社

○都佐社 土佐郡 在り 祭神 高鴨大明神

○高賀茂大明神 味耜託彥根命也 一宮記

○土佐風土記云 土佐郡 郡家西去四里有土

佐高賀茂社 其神名 為一言主尊 神名帳註

御位 貞觀元年正月廿三日 從五位上 神階記

○託宣 徳人のいともまねとて 附より 老此言可

あつまうぐ一音取とて 三つ音とて 大急人とて

なり神のも生るといふ人々もよくふりてあはれ
 にくめる人々も道心してきてあはれ心を全
 はいたるにたるといふ人々もあはれ心を全
 わざともひねりてあはれ

○西海道 總云之筑紫也二島壹岐對馬
 也 筑紫ト云事ハ允恭天皇ノ時異國
 ヨリ紫草ヲ獻シケルニ其船ノ着所ヲ筑
 紫ト云フ也筑ハ着之義也云々 風土記心

○西海道 九箇國

○筑前國 十五郡 田圃一萬九千七百六十五
 五穀を饒器財產物穀多あり
 怡土 志摩 早良 那珂 摩田 糟屋
 宗像 鞍手 嘉麻 穗波 夜須 上座
 下座 市並 遠賀

上後南小四月

知行高	五十二万二千九百十二石	江戸	二百九十里
城下	福岡	成	槐月城

筑前

一之宮

宮崎神社

名産

釜

松島

清本綿

蠟 塩 焼酎

金寄鮑

玉島川鮎

野雁

名所

生松原

稲荷

杉

千賀浦

竈門山

香椎

金河寄

新萱園

深川

神湊

恩川

草香江

朝倉

本丸殿

清見社

義守浦

白川

志加島

宗像山

大城山

八ノ四十三

大野山

兄木山

芦城山

子母松原

波急浦

赤肌山

身浮渡

内浦渡

芦屋

水草園

多良良原

石崎

厚泊

荒船宮

西都

玉島山

玉島川

神社

宮崎 香椎

宗像 宰府

志賀 網場

大己 宇津 壹伎

○宮崎社

那賀郡ニ在リ

祭神三座

神功皇后

恋神工皇

武内臣

人皇六十代^{天武}天皇延喜廿一年六月
 廿一日依託宣建官柱於宮崎松原書新羅
 降伏之旨而置御座下立石柱祈神誓不
 移綠起云昔白幡四流赤幡四流降下於
 其處我松而表故有八幡之号以上神社考
後古今
 子早振神代本云一若勝の松之号一と云うるなり
 此後
 移るべく幾無神代本に於て此の松の神を云ふなり
 ○宗像社 宗像郡ニ在リ 祭神一座
 田心姫命 素戔嗚子

宗像 一作肩肩 又作肩形
 ○天照大神与素戔嗚鳥誓乃取其十握劍所
 生神号云田心姫次湍津姫次市杵嶋姫凡
 三女矣大神勅云十握劍者素戔嗚鳥尊物也
 此三女神恋是尔兒便授之素戔嗚鳥此筑紫
 胸肩君等所祭神是也 日本紀
 ○神書疏云由名帳筑前国宗像郡宗像神
 社三座是也田心^心 臣胸肩明神湍津姫宇佐
 明神市杵嶋^也 皇^皇明神已上神社考

○首貞信公コ一又ホニ居住アリケリ此所ハ
 筑前国宗像ノ明神統紫ヨリウツリ坐ニス
 所ナレバ貞信公尊教レテ洞院ノ後路ヨ
 リソ必車ヨリオリテ出入アリケリ或時
 此神形ヲゴシテ玉ヒテ貞信公ト物語ア
 リケルニ神ノ御位貞信公ヨリ早ヨシ
 フノタニハバ公此由ヲ奏問アリケレバ
 ヤガテ神ノ位階ヲ進玉ヒケリ

○志加清カ社 糟屋郡ニ有リ 祭神 三座

底津少童命 中津少童命 表津少童命
 ○伊奘諾身至筑紫日向小戸橋之楳原而
 被除垢洗濯於海底因以生神号云底津少
 童命又潜准於潮中因以生神号云中津少
 童命又浮准於潮上因以生神号云表津少
 童命是阿基通等所祭神矣 日本紀

○志加清カテ 讀也 爲テヨムハ 近江ノ名所也

此の志加清は、糟屋郡の志加清社に因りて名づく。近江の志加清は、阿基通等所祭神の事也。

新古々
志乃浦やまきり
のしに
ゆり
氷
安
る
の
明
隆

新物推
とら
を
い
乃
と
か
へ
う
く
こ
法
人
と
云

月
とら
は
海
土
珍
奇
や
く
い
れ
ん
た
ま
を
か
ず
ん
と
月

金葉
は
ま
を
か
ひ
く
ま
る
か
ら
も
弓
強
く
力
の
い
れ
か
ま
り
愚

心
の
熱
お
あ
り
。

○大己貴社
夜
渙
郡
ニ
在
リ
祭
神
一
座

大己貴命
傳
系
上
ニ
有
リ
オ
キ
ナ
ガ
タ
シ
レ
命
欲
我
新
羅
整
理
軍
士
發
行
之
間

八
四
十
六

道中逃亡
古
未
其
由
即
有
崇
神
名
云
大
三
輪
神
所
以
樹
此
神
社
遂
乎
新
羅
神
名
帳
註

○宇跡社
宇
跡
ニ
有
リ
祭
神
一
座

譽
田
天
皇
是
即
八
幡
大
神
也
此
所
生
レ

玉
ノ
所
也

皇
后
從
新
羅
之
十
二
月
戊
戌
朔
辛
亥
生
譽
田
天
皇
於
筑
世
故
時
人
号
其
産
处
云
宇
跡
也

日
本
紀

○香
推
社
糟
屋
即
三
月
日
祭
神
二
座

神功后皇 東外武内祢子西

祭童カ官昔者仲哀天皇之后息長足姬神功

及大臣武内宿禰命今在此行官謀代新羅

從宗ヨリ已來レ便ニ廣室后官在東臣在西北二社註

為社ヲコメル也奇

神主膳武忠

金葉

しんじゆ香雅天皇の孫女を云ふるは金葉の記
の事振りしは皇のわが孫の孫に云ひ

○宰府社 太宰府ニ有リ 祭神

菅家 山城北野天神宮本宮也

傳記云醍醐天皇延喜元年依元僕射時乎
之讒ガ遷シ大宰ノ權帥ト一歲ニ薨リ于一宰府ニ春秋五
十七遂ニ葬ス于一字ヲ号ス美滿官ト

●太宰府 當國ハ日本西ノ末ニテ異國

近シ若シ兵國ノ夷軍來ル時ハ其ノヲハセ

カンヲ為ス人ノ勢ヲ此所ニシテナリ府ハ其居ル

所也東國ニ臣ト鎮守府アルガ如シ

猶ト有リ職ト相ト中ニ欽ニ書ニ再

○綱場天神 博多ニアリ 祭神 刀上ニ

昔菅相公尤^{サカヒ}也^トオセムキ玉ヲ時此所^ニ
慈王^{オモヒ}ヒレニ居^ラ奉^ラシ神座^{オモヒ}ノナキ一^ニ
船^{フネ}ノ綱^{ツナ}ヲワフコトクナレノレヲ敷^キテ其
上^{ウヘ}ニ居^ラ奉^リリシ也此時一夜ノ中ニ白髮^{ハクハツ}

ト成^ナラセエフ也

壹伎^{イキ}社

那^ナ那^ナ郡壹伎^{イキ}ニ在^リ

祭^{サヒ}也

壹伎^{イキ}直^{アタヒ}真^{マコ}子 應神天皇^{オホカミ}臣^シ下^カ也

應神天皇ノ御宇武内大臣^{オホクニ}勅使^{オホクニ}トシテ筑
紫^{ムラサキ}工^{オホクニ}赴^{オホクニ}キケル間ニ大臣ノ弟^{オホクニ}其^{オホクニ}美^{オホクニ}内^{オホクニ}宿^{オホクニ}禊^{オホクニ}

八四十八

讒^{ウソ}言^{コト}シケルハ武内筑紫^{オホクニ}ニテ三韓^{オホクニ}ヲカ
ラヒ謀^{オホクニ}叛^{オホクニ}セントスト奏^{オホクニ}ス天皇怒^{オホクニ}王^{オホクニ}ヒテ
使者^{オホクニ}ヲ以^{オホクニ}テ武内ヲ殺^{オホクニ}サシメントシ玉^{オホクニ}フ
壹伎^{イキ}直^{アタヒ}真^{マコ}根^ネ子^コト云^フモノ厭^{オホクニ}テ武内ニ此^{オホクニ}由^{オホクニ}
ヲ告^{オホクニ}ワレ身^{オホクニ}ノ形^{オホクニ}ニ似^{オホクニ}タリト世^{オホクニ}上^{オホクニ}ニ云^フ
処^{オホクニ}ナレバ吾^{オホクニ}命^{オホクニ}ニカハランサアラバ討^{オホクニ}手^{オホクニ}
ノ勅使^{オホクニ}シリゾキナン其時ハ身^{オホクニ}身^{オホクニ}ヒソカ
ニ上^{オホクニ}洛^{オホクニ}シテ罪^{オホクニ}無^{オホクニ}キ昔^{オホクニ}ヲ申^{オホクニ}ヒラカレヨ其
後^{オホクニ}ハ死^{オホクニ}ス臣^{オホクニ}馬^{オホクニ}ヲラント云^フステ、自^{オホクニ}害^{オホクニ}ス

使者武内ガ首ナリト見テヤカテ退ケリ
 武内ハ竊ニ上浴シテ科ナキ由ヲ申ス天
 皇聞玉テ其美内ト武内ト神前ニテ熱湯
 ヲ探ラレテ其実否ヲ決ス武内ハ更ニ
 志ナカリケレバ官職ニ元ノ如ナサ
 シメ玉ヘリ湯起請ノ起是也扱其美内ヲ
 ハ武内自害殺セントシケルヲ天皇勅シ
 テ釈サシメタ一ヒテ其一門ノ者下サレ
 ケル也 日本紀心

○筑後國 十郡 田圃一万千三百七十七丁

五穀 粟 鱗 多

御原 御井 生葉 又 竹野 山本 三瀨
 上妻 下妻 山門 三池

上叟大中國南小五日

知行高 三十万二千八十五石 江戸ヨリ 遠二百九十里

城下 久留米城 柳河城 三池

筑後 一之宮 高良玉垂神社

城下 小倉城 中津城 新田

豐前 一之宮 宇佐宮

名産 小倉酒 小倉米 硯石 水精 陶器

彦山茗 湯嶽硫黃

名所 鏡山 四極山 比古宮 笠縫傳 企救

溪門司園 吹出溪 高溪 葦傳 葦の池

柳浦 宇佐宮 清水寺

神社 宇佐八幡同 賀春 西寒

○宇佐宮 宇佐郡ニ在リ 祭神八幡三所

○三所者八幡比咩神大帶姫也 豐前國宇

佐郡菱形山廣幡八幡大神坐郡家東馬

城峰頂後大皇四十代聖武御宇神龜四

年就此山奉造神宮二十二社註式

○欽明天皇三十一年冬肥後國菱形池邊

民家児甫三歳神託云我是人皇第十六

代譽田八幡麻呂也諸州垂跡于神明今

又顯于此其後差勅使移而鎮坐於豐前

國字佐宮 神社考

○傳教大師弘仁五年春詣宇佐八幡神宮講妙法華講竟神託云不受法味久歷歲華今聽微言何以報德我有法衣願表觀達乃啓拜殿推出紫衣二領神宮巫祝各相謂云我等未嘗見如斯靈感也 叙書一

○四十八代孝謙天皇神護景雲元年九月太宰府ノ阿曾麻呂ト云者道鏡ガ威ヲ見テコビヘツラロヒテ宇佐八幡ノ託宣ト稱

ジテ道鏡ヲ帝位ニ即シメバ天下泰平ナラント云道鏡悦テ天皇ニ申ス天皇道鏡ヲ愛スル事甚シトイヘドモ帝位ノ事ハ私ナラヌ事ナレバ宇佐エ勅使ヲ遣シ神託ニ任セテ決セント宣フ道鏡然ルベシト申ス天皇和氣清麻呂ヲ召テ云ク八幡大神夢ノ告有リ汝ヲ勅使トシテ宇佐ニ遣ベシ能敬テ神託ヲ聞テ敏レト也清麻呂御前ヲ退ク時道鏡人ヲ退ケテサヤキ

ケルハ此度ノ勅使ハ我ニ帝位ヲ讓ラル
ベキヤ否トハ幡大神ニ問ル、処ナリ其
心得ヲ以テ神託ヲ言上スベシ汝ガ返事
ニ依テ我即位セバ汝ヲ大臣トナシテ國
ノ政ヲ任スベシ若返事悪クハ重キ罪ニ
行フベシト眼ヲイカラカシテオトス清
廣呂守佐工參詣シ是ハ國家ノ大事ナリ
縦ト託宣アリトモ卒尔ニハ信ジ難シ願
ハ一ツノ不思議ヲ示シ玉ヘト祈念シケ

レバ大神忽チ長三丈バカリノ形ヲ現メ
影向アリ其光満月ノ如シ清廣呂伏拜シ
仰キミル事アタハズ神託ニ云吾國ノ天
日嗣ハ神代ヨリ代々皇胤ノ外臣トシテ
伺フベキニアラス況ヤ無道ノ者フマ汝
飯テ有リ、ニ申ベシ道鏡ヲオソル、
事ナカレト清廣呂神託肝ニメイジテ都
ニ飯リ矣内ス道鏡御前ニ侍テ椅子ニヨ
リカ、リ清廣呂ヲ呼テ神託イカニト問

清平呂少毛論ヲハズアリクニ、ニ奏聞ス
天皇モイト島ナク思ヒ玉ヘリ道鏡大ニ
怒テ清平呂已ガ心ヲ以テ神託ヲ詐テ申
ナルベシ曲事也死罪ニ処スベシトイフ
天皇死罪ニテハ如何ニト宥王ヘバ道鏡
怒テ足ノ筋ヲタチテ大隅国エ流ス道ニ
テ殺スベシト道鏡ハカリケレ臣折節
雷雨甚シクテタメラウチニ勅使來テ
死罪スル事ナレ清平呂行状叶サリシ

ガウ依ハ幡工冬詣シケレバ足ハ筋忽チ
ナヲリテ行半本ノ如ク也藤原百咄ト云
フ者清丸ガ忠節ヲ感シテ備後国ニ領地
アリケルヲ分テ清丸ガ配所エヲクル風
四年八月天皇崩御アリ歳五十三丸在位
十六年也其後白壁王太子ニ立玉ヘリ即
光仁天皇是也天智天皇ノ孫施基皇子ヲ
子也藤原永手吉備大臣太子ト相談シテ
道鏡シ下野國藥師寺ノ別當ニナレテ彼

国工流ス世ヲ篡シトセル悪人ナレドモ
先帝御恩深ニ依テ死罪ヲ免ストナシテ
ヲヘテ道鏡病死ス清平呂ヲ都工般ス
○盛衰記主上女院ヲ始進テ内府以下ノ
人々豊前国宇佐ノ宮工參詣アリ社頭ハ
皇君トナリ厨ハ丹波西宮ノ居所トナル
御所誓戸趣ハ主上御都ノ還幸也都ハ
テニ山河遙ニ隔テ雲ヲ殊所ニ成ヌ何コ
トニ付テモ心ツクレノ旅ノ聖ヲウキ

船ノ任居メコガレテ物ヲゾ遊ニケル七
箇日ノ御冬トテ大臣殿財施法施ヲ奉
奉リ神室神馬角テ七箇日ヲ送り玉ヘ
是非ノ夢想ナシドモナカリケレバ第ニ
日ノ夜半計ニ思ヒツクケモヒケリ
思々心ツクニ析トモウカニハ物モイハザリ
神殿大ニ鳴動ノ良久シテユニキ脚色ニ
世中ノウカハ神モナキ物ヲ心ツクニ何イクル
○ウーニサチ此後流ルキマカノ河

それより海よりいそり 撰佳事抄

○新古今集

秘法天中記の事記秘法九と
春謙天皇月

宇佐宮の事ありまゝの座はくせんか
る法事

西の海なる事成りしゆて何と云ふ今り此世と

○神託 前生の心不善ある事此作の時

いむと云ふ事いふかやと云ふ事行か

いふて云ふ事いふかやと云ふ事行か

いふて云ふ事いふかやと云ふ事行か

律乃舎ニアツカ成りあふまみあふか何と云ふ事

○宇佐宮 宇佐郡ニ在リ 祭神一座

湍津姫命 素戔嗚命子

傳系上ニ見 社記未考

○賀春社 香春郷ニ在リ 祭神一座

辛國息長大姫 是神日本之神ニシイニ非ス

○豊前風土記云田川郡鹿春郷昔新羅神

自度到來任此川原即名云鹿春神也案之

豐別比咩語曾社不見神名帳并風土記也而任那新羅國種也辛國比咩語曾神之垂跡也神名帳註

○釈寂澄傳弘仁五年春於賀春神宮寺講妙經是時豐前田河郡吏等錄瑞雲狀寄之澄固封告義真云非吾滅後不得開緘寂後門弟子等披閱其文云今月十八日未時紫雲光耀起賀春嶺覆法筵之庭村已悉見敬異又是澄泛海時宿田河與賀春

山下夢梵僧來前袒衣露身左肩入右肩如石言之云我是賀春明神也和尚悲救吾業道之身我當加助求法晝夜守護欲知我實海中急難現光為驗澄明且脈山右边崩巖草木不生宛如夢中半身心異焉又海中風浪果有光耀是以思神之不浪也而建法華院自創講席乃神宮院也開講之後其右巖之地漸生艸木年年滋茂鄉邑嘆異歎書一

○肥前國 十一郡 田圃 一万三千四百六十二丁
 土厚く種百倍をまれば多し

モト八火前ト書タリ其故ハ景行帝ノ十八年五月ニ
 葦北ヨリ火国ニ到日没テ夜闇カリ方ハ船ヲ看テ岸
 ヲ知ズ其時遙ニ火ノ光見エテ此ニテ着岸ヲ得タ
 リ是人間ノ火六ツト重テ其国ヲ火前ト云也云々
 基諱 養父 三祖 神寄 小城府 佐賀
 松浦 杵築 藤津 葛本 高来

上後中上國南小五日

知行高	五十六万四千三百七十七石	江戸ヨリ	近ハ二百九十里 遠ハ三百九十里
城	佐賀城	鹿嶋	蓮池
下	五嶋城	平戸城	心新田
		大村城	嶋原城
		小城城	唐津城

肥前 一之宮
 淀姫神社

名産	陶器 唐漆 時計細工 絃延 絃簾 白煙
唐漆	唐漆 佛子楸 楡樟 蜜柑
外	蜜漬生姜
久我梨	葡萄 蓮芋 西瓜 海脆 蘇油

五島錫 鯉節 若和布 松海苔 寺井海
草 二神隼 串籠 平戸の 土器 西之表

佐賀の 後炮

名所 比礼振山 玉瀧川 鏡神 松浦海川

心の園 七瀬湊 鞆の瀧 伊洞園 有の仲

真板原 鴻原

神社 淀姫 松江 鏡宮 櫛田 板櫃

○淀姫社 佐賀郡ニ在リ 川上大明神ト号ス

○肥前風土記云 人皇三十代 欽明天

皇於五年甲申冬十一月朔日甲子肥前國
佐嘉郡与止殖神有鎮座一名豊姫乾元二
年紀云淀姫太明神者八幡宗廟之叔母神
功皇后之妹也三暉征代之昔者得于滿兩
顆而沒異賊之凶徒於海底文永弘安之令
者施凡雨之神變而摧幾多之賊敵於波濤

神名帳註 ○御位 貞規十三年九月十

六月正五位下 國史

○松浦社 松浦郡ニ在リ 祭神三座 上松

浦下松浦氏二月ニ鏡宮ト稱ス祭ル所

○田島神一座 ○仲哀天皇弟推武王也

上松浦明神 神名帳註

○志々伎神一座 ○稚武王弟十城別王也

下松浦明神 月上

○鏡宮 一座 ○首氣長足魁尊在松浦山

遙覽國形而勅之云 天神地祇為我助福

乃用脚鏡安置此所其鏡化為石而在也

故名云鏡宮 肥前風土記

和尋 新千載集 卷之廿

のしんといふは松浦の後の子なりといふ

○檜田社 神祈部 在リ 祭神一座

大若子命 天部中主尊十九世孫上二皇

○垂仁天皇御宇有北狄退治之功賜大幣

封命 啓

元弘三年三月十三日卯ノ刻ニ肥後国住

人菊地入道寂阿僅二百五十騎ニテ筑紫

ノ探題北条英時ノ辭工ゾ撰寄ケル菊地

入道攝田ノ官ノ前ヲ打スギケル時軍ノ
出ヲヤ示サレケン又衆打ニシタリノケル
ヲトガメ有ケン菊地ガ衆タル馬俄ニス
リミテ一足モ前工進エズ入道大ニ腹ヲ
タテ、如何ナル神ニテモオハセヨ寂阿
ガ戰場工向ハンズル道ニテ衆打ヲ丸玉
フベキマウマ有ル其美ナラバ矢一ツニ
イラセン受テ御覽セヨトテ上差ノ鏑ヲ
拔出シ神殿ノ扉ヲ二夫ニテゾ射タリ

ケル矢ヲ放シト均ク馬ノスクミ直リニケ
レバサゾヨトアサ笑テ打トヨリケル其
後社壇ヲミケレバ二丈計ナル大蛇矢ニ
當テ死タリケルコソ不思議ナレ太平記
○板櫃社 松浦郡ニ在リ 祭神一座
藤廣繼之靈也
傳上ニ見タリ ○廣繼到板櫃河与
官軍戦死其靈板櫃明神是也 啓

肥後國十四郡 田園 一万三千四百六十二丁
 良材 柴薪 五穀 綿帛 魚鱗 多し
 玉名 山麻 山幸 粟池 阿蘇 合志
 任摩 球磨 飽田 益球 宇土 天草
 芦北 八代
 中後大中國に方五日
 知行高 五十七万九千八百八十石 江戸 興 二百八十里 遠 三百五十里
 城下 熊本城 新田 宇土城 球ヶ舎城
 肥後 一之宮 阿蘇神社

八ノ六十五

名産 熊幸煙管 革籠 陶器 八代漆
 八代蜜柑 鮎子籠 切縁 相良陶 絞本
 綿 高嶺 靈符板 沖免草 腹赤鯛 長洲 長洲
 柔池苔 百足苔 天草砥 野大根 志波
 白墓石 火川火打石
 名所 多波礼徳 鞆灘 野坂浦 松浦 水
 宇土小島 腹赤の巻 裸島 八代池 阿
 蘇池 赤幡山 万里杜 龍尾川 松風
 関 墨摺門 碑門 洞浦 風流橋

○阿蘇社 阿蘇郡ニ在リ 祭神三座

武磐龍命 本宮 阿蘇姫 二殿

国造速甕王命 三殿 以上社記

右本傳口決相承也

○景行天皇御宇十八年六月十六日到

阿蘇國也其國郊原曠遠不見人居天皇

云是國有人乎時有二神云阿蘇都彦阿

蘇都媛忽化人以遊詣之云吾二人在何

無人耶故号其國云阿蘇 日本紀

即位 仁壽元年冬十月丙午建岩龍命加
階從三位 文德實錄

貞觀十七年十二月從二位 國史

仁壽二年二月戊子阿蘇姫神加從四位下 實錄

○神託 益人の天降の事と云りては

あまのまら別天降しその人降神めく

いさひのまらあまのまらあまのまら

はらうまらひまらにかりてあまのまら

まらひまら 阿蘇

名産 藤枕 杉本 松板 松角 若竹

山黄檗 五倍子 推草

名所 憶ヶ原 速日峯 高千穂宮 神

踏仲 桜橋 秀島

神社 都農 高千穂

○都農社 兒湯郡ニ在リ 祭神 大己貴命 一宮記

○高千穂社 番點袖并鎮座記未考

昔豊後国或片山里ニ女有リ或人ノ独女也男
何万去ナリ夜々通フ程ニ年月モ経ケレバ直テ
ラス成ヌ母様テ通フ者ハ何者ト問ケレバ來ズバミ
シ共飯ヲ不知ト云フサラバ飯時効ヲ付テ見ヨト云
ケレ朝飯スル時男ヲ狩衣ノ頸髪ニ針ヲサシ幾ノ緒
環ト云物ヲ付テ角ト觀ニ告ダレ入四五斗具々糸ヲ注
テ尋行ニ豊後日向境傳婆娑嶽ヲ下大ナル石屋ヲ
内工入リ女岩屋ヲロニイテ聞ケバ大ナル色ヲ喚ケ

女云ケル八郡（八郡）姿ヲ九進（九進）為リテ八是ニテ參テ侍
 一イバ内ヨリ云ク我ハ人ノ姿ニ非ズ汝我姿ヲ見バ
 肝魂モ身ニ添（添）ニシキゾ胎ル子ハ男（男）子ナルベシ
 打物取テ九ノ一島ニ肩ヲ双ル者有一ジキソト云ノ
 世皇ヲ疑如何ナル姿ニテモ才ハセヨ日比好ニ互ニ姿
 ヲ今一度見モレ見エラシト云ケレバサバトテ長五
 六尺（尺）筋枕（筋枕）五十四五丈計ナル大蛇ニテ這出ケル彼針ハ
 大蛇ノ腦咽ニミタリ是即日向高知尾明神也（尾明神也）
（王家物語 盛衰記）

○大隅國 八郡 田圃 八千二百十三丁
 米穀多ク 材石も又多ク 魚鱗 帛

和銅元年日向國ノ内四郡ヲ分テ是ヲ
 置ケリ本郡ノ名也云ク

- 大隅 美州 素原 福於府 始羅 肝属
- 勃路 熊毛 多祢島 中後中上國四方二日

知行萬 十七万八百二十八石 江戸ヨリ 三百四十里

名産 小鳥銃 檜板

名所

氣色杜

善園

奈毛本杜

風杜

後瀬山

青葉山

大隅 一之宮

鹿兒島神社

○鹿兒嶋社 素原郡ニ在リ

正八幡ト号ス 祭神 二説

彦火々出見尊 一説

○大隅国正八幡火々出見尊也興宇佐八

八ノ七十

帳不同 神書鈔

大隅宮神功皇后乎大御前豊玉姫南面
應神帝若宮仁德帝西向武内臣也
欽明天皇五年甲子頭座 社記 兼右説

○神託 益人が公み汝あまは万物皆ま

がみ益人が公み汝あまは万物皆ま

あまは万物皆ま

神明なるがゆへに日上

百二十五

○薩摩國十四郡田圃一万五千五百二十一丁

立敷魚鱗豊なり

出水 高城 薩摩 日置 伊佐 阿多

河辺 頼姪 結黎 候山 指岩 瓠崎

奥小嶋 麻見崎

中後中上國四方二日

知行高卅一万五千二百五十二石 江戸ヨリ 四百里余 三百四十里

城下 鹿見嶋城

八ノ七十一

名産 薩摩人參 莪木 樟腦 硫黄 紅花

紫根 蕪織 蘭 椋桐皮 黄楊 萩

赤芋 芋 大各竹 日笋 上布

芭蕉布 椰 又 麻皮 牧野

冷盛酒 米 紙

名所 奥小嶋 硫黄崎 白崎 与作不島

幸の崎 薩摩迫門

薩摩 一之宮 和多都美神社

○ヒラキ 聞社 綿積上毛ヲツミ 穎娃郡ニ在リ 祭神
猿田彦命 一宮記

貞觀十六年七月二日ダサイフマウス 大宰府言薩摩國
從四位上ヒラキ 開聞神山頂有火自燒烟薰滿
天ニハ 灰沙如雨震動之シンドラ 声聞ユ 百余里近社百
姓震恐失情ヲソレテコノラミヒカサエマドカノ 求著神龜封戶及汚穢神社
仍成テ 此崇スノタリヲ
執奉封二千戸ヲ 三代實錄

八ノ七十二

○壹岐國 二郡 田圃 六百二十丁
陸奥出羽佐波 隱波對馬以上四國二海
邊要ハシ 石田 下後皆矣移之四方一日

知行高一万五千九百八十二石 江戸ヨリ海陸二百里余

名亭 本綿 鯨日池 辨 雲 腕海系とりの

名亭 雲 海松園 引 風

松原 天原 夜津

壹岐 一之宮 天手長男神社

○天手長男社 石田郡ニ在リ 祭神

天思兼神 一男也 一宮記

○對馬國 二郡 田圃 六百二十丁

日午 兩水の松之船 鮮へ口十八里 又穀粟不
上縣 下縣 下後小下圃也

上縣 下縣 下後小下圃也

知行高異 國近城故 不數其料

城下 府中城

名産 人參 鮮産 推茸 蕎麥 昆布

質斗

名所 浅茅山 紅葉山 神振山 百島

村寄 香の山 對馬渡 竹後浦

對馬 一之宮 和多都美神社

○和多都美社 上縣郡ニ在リ 祭神

八幡宮也 一宮記

